

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |            |            |  |
|---------|------------|------------|--|
| 事業所番号   | 1790100067 |            |  |
| 法人名     | アサヒ株式会社    |            |  |
| 事業所名    | グループホームあさひ |            |  |
| 所在地     | 金沢市薬師堂口8番地 |            |  |
| 自己評価作成日 | 令和 3年9月30日 | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="https://www5.pref.ishikawa.jp/kaigosip/Top.do">https://www5.pref.ishikawa.jp/kaigosip/Top.do</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |  |  |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人シナジースマイル |  |  |
| 所在地   | 石川県金沢市千木町129番地    |  |  |
| 訪問調査日 | 令和 3年10月20日       |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者、ご家族、そして職員、誰も無理をしない、誰にも無理をさせない、地域の人と仲良く」その為に私達は、人生の先輩たちからの学びを大切に、明るく元気な自分づくりに努めます。の介護理念の基に利用者が穏やかに暮らせるようサポートしています。  
 コロナ渦で、面会、外出、行事などが制限される中、施設内で出来る限り、利用者に合った生活支援のサポートをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームでの暮らし方を利用者さん個人だけにフォーカスを合わせるだけでなく、その御家族やお友達、近隣の方々や町内会・ボランティアの皆さんまで着実に寄り添いの輪を拡げ、職員と共に時代を生きていращやる時間がその歴史を聞き取りし理解できた。来年1月で設立14年目に入り、最も長く暮らしていращやる方は13年を数え、理念通り無理をしない、させないの暮らし方と支援は健康を保ち続ける大きな要素となっている。又、病気等による入院が少なく、看護師資格を有するホーム長を先頭に一歩前を見据えた健康管理と迅速で的確な対処が明日の一日を担保する根拠となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 60 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 67 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 61 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,42)           | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 68 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 62 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:42)                 | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 69 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 63 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:40,41)   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 70 | 職員は、活き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 64 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:53)                | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 71 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 65 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 72 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 66 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  |    |   |                       |   |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

| 自己                 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|--------------------|-----|--|---|--|-------------------|
|                    |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |  |   |  |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                             | 要介護1～要介護5と多岐にわたる介護度の入居者が暮らす施設だが、職員1人1人が理念を共有し、入居者がその人らしく、無理せず穏やかに、安心して暮らせるような支援に努め、実践している。  | 無理な生活をする事が無いように「誰も無理しない。誰も無理させない。」が理念となっている。理念は日々のケアの中で職員間でも共有できる様ホーム長が常に行動を含め示すことができている。また、会議の際には理念を上の句とする様々な日常支援等について理解しあうよう努めており、相互評価に結び付けている。                      |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                             | 新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、種々の地域行事が開催の中止との連絡が回覧されている。地域に速やかに正しく情報が伝達されるように回覧板を届けている。利用者は地域との交流や行事を控え、施設内で楽しみを見つながら、過ごしている。                                    | ホームを開設してから13年経過しており、地域との関わりも同様に同時にある。コロナ禍で地域の行事に積極的に参加する事は困難だが町会長がホームに訪問して下さったり、回覧板のやり取りなど日常的な事は継続して行っている。地域の方とお会いすると手を振る事もあり、ホームの前は小学生の通学路となっているので自然と関わりが持てるようになっている。 |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                           | 令和元年度より、子供110番の家の登録が認可された。登下校の子供達への声掛けや見守り、地域の方へのあいさつに心がけている。   |  |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている        | 今年は、新型コロナウイルス感染予防の観点から例年通りの会議は開催困難となり、書面での開催を余儀なくされている現状である。施設内の日常生活状況などを『あさひ通信』を用いて書面で報告している。  | 運営推進委員会は年6回開催していたが、新型コロナ感染防止に伴い、開催が困難な状況となっているが、書面での通信等を通して関わりを絶たないよう工夫を行っている。   |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる                    | 市町村担当者から届く情報を施設内で共有し、日々の活動に活かしている。  | 新しい介護支援専門員が入った際には、書式改訂を行うにあたり、金沢市の職員から様々なアドバイスをもらうことができている。金沢市の協力を感謝している。  |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | コロナ禍で、利用者や訪問者がいつでも自由に入出りできる状況ではないが、外に出かけたい利用者には職員も同行し関わっている。施設内は、ユニット間を自由に行動できるように見守っている。身体拘束防止担当者を決め担当が、リモート研修やアンケートによる意識調査を行い、利用者へのよりよい支援に繋げる努力をしている。 | 職員は身体拘束に関して周知している。行動の制限などに関しても、利用者の思う行動が行えるように配慮している。ホームの2階に行きたい人にはスタッフが付いて行き、屋外に出たい人には一緒に公園まで散歩するなど工夫している。職員間でお互いに協力し合い支援している為、スピーチロックと思われる表現についてはその場で学び、訂正・共有ができている。 |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 虐待防止担当者が中心となり、リモート研修やアンケートによる意識調査を行い、スタッフが言葉掛けを行い、利用者を否定せず寄り添い、穏やかに過ごせるよう配慮している。  |  |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 現在成年後見制度を利用している利用者が2名いる。権利擁護については、日々の関わりや職員研修で意識付けと理解を深める努力をしている。   |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                        | 利用者やその家族には、入居前にできるだけ施設の見学をして頂いた上で疑問、質問に応じている。契約に関しては十分な説明を行い疑問があったら丁寧に対応している。法改定に伴う各種の手続きについては口頭及び書面にて説明し、同意を頂いている。入居後も家族来訪時に利用者の変化について必要時説明している。 |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | コロナ渦で、運営推進委員会は書面開催となっている。家族の気付きや要望は、電話や面会時に聞き、介護計画に掲げ共有し、実践の場で活かせるようケアに努めている。就業中に管理者、職員間で意見交換し、必要時は具体策を話し合っている。また、外部評価結果は、自由に閲覧できるようにしている。        | 利用者、ご家族の意見をケアマネジャーが聞き取りを行っている。書面や電話でご家族の意向を聞き取る事も出来ている。昨年までは文章で伝えられるのか不安ではあったが、現在は書面と電話による情報提供で相互に理解と情報収集及び交換が可能となった。  |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 就業中に把握した利用者の状況や家族・職員からの意見や提案を聞き、必要なケアは、連携医療機関からの支援や業務内容の工夫や介護用具等を検討し、導入・実践に繋げている。   | 新型コロナウイルス感染症に対して職員から防止方法の意見が出たり、おむつに対しての意見であったり、その他の意見を含め意見が反映できるようになっている。すぐに対応できるオムツに関しては間髪いれず取り入れた。職員の新型コロナに関しての対応策などについても厳しいルールを設け、県外に出かける職員に関しては休みの調整を行っている。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 管理者は法人と連携し、職員個々やチーム全体への指導や意見を求める機会を設け、意欲向上に繋げている。勤務希望や公休、休憩時間はきちんと取得している。各自が向上心をもって働けるように、日々、取り組んでいる。   |  |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 法人が指定する規定研修以外にも、主催する種々の研修を全体に掲示し、参加を奨励している。コロナ渦で、ほとんどが、リモート研修となっている。出席した研修の報告、発表は書面で、内容を報告し勉強会としている。  |  |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者及び職員は、社会福祉協議会が運営するケアカフェや同業者が参加する協議会に参加し、意見交換や気づきを共有し、質の向上に努めている。   |  |                   |

| 自己                           | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
|                              |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |  |                   |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 環境の変化からくる利用者の不安、心配は当然のことと捉え、ゆったりと寄り添いながら、信頼関係を築けるように努めている。職員各々が関わっている際に感じた事、思いを共有しながら、個人記録等を通じて、利用者が困っている事を、本人と一緒に考えて、安心できる支援に努めている。  |  |                   |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 家族の思いを受け止め、コミュニケーションをとり、職員との信頼関係を築くよう努めている。利用者の状態や家族の要望もケアプランに反映し支援に努めている。  |  |                   |
| 17                           |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | サービス提供については、本人と家族の要望も取り入れ、できる限りの支援に繋げるようにしている。日々の暮らしは、必要に応じて家族と話し合っている。記録や職員の情報等から利用者の状態を知り、利用者が今一番必要としていることは何かを把握しながら支援している。   |  |                   |
| 18                           |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 利用者個人の能力や意欲、健康状態に応じて、無理強いせず言葉掛けをしながら家事参加等の協働姿勢を取っている。居室や廊下の掃除や食器の片付け、洗濯物たたみ、食事作りや、おやつ作り等を、スタッフと共に行い楽しみながら、その人らしさを大切に、暮らしていけるような関係作りをしている。                                     |  |                   |
| 19                           |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 新型コロナウイルス感染防止対策から、家族との面会が制限される状況。どうしても、面会が必要な場合は、ワクチン接種済みの確認を行い、手指・環境消毒、検温、マスク着用、距離を置いた面会、面会の時間制限などを設け、対応している。また日々の生活の様子を電話で報告し、家族の意見や要望も取り入れた支援計画を作成し支援に努めている。文章等は郵送で対応している。 |  |                   |
| 20                           | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 新型コロナウイルス感染防止の観点から、家族や知人には、了解を得た上で面会を控えて貰っている。家族や知人等の来訪の際は、前もって電話連絡を頂き、誕生日などの特別な状況に応じて感染対策を講じた上で、玄関での面会や窓越しで距離を置いた対応を行っている。   | コロナ禍で家族や知人との関わりを持つ事が少なくなって来たのが現実だが、誕生会には面会して頂いている。訪問理容師が昨年まで来ていたが、理容師の訪問を中止しており、看護師が髪を切ったり、玄関で美容師さんに髪を切ってもらったりして関わりを継続できるよう工夫を行っている。 |                   |
| 21                           |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                  | 健康状態に問題がなければ、居室から出て、仲間と関わりをもち、新聞たたみや洗濯物たたみ等、利用者同士が仲間意識を持ち関わりの中で協働し合えるよう支援している。また、童謡や懐メロを歌ったり聴いたり、点むすび遊び、ぬりえなどで楽しんでいる。テレビや新聞で得られる情報等の話題を職員も交わり、笑いや憩いの場を設けている。                  |  |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | コロナ渦であり、入院となった場合の面会は、遠慮している。退居となった場合は、必要に応じて電話で対応している。亡くなられた場合は、管理者、職員が代表で葬儀に参列したりと関係は続けている。   |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | ひとりで時間を過ごす事を好む人は、静かな心地よい空間で、過ごせるように配慮。外を好む人への対応は、できるだけ利用者本人の時間が持てるよう工夫している。散歩や買い物をするしながら、会話し、ひとり一人の関わりを大切にしている。帰宅願望や感情の起伏の激しい時は、共感し、見守りに努めている。意志表示ができない利用者には、生活歴や家族だったかどうかを推測し本人の思いに近づくような対応を心掛けている。 | 生活歴を振り返りながら、入居者個々の思いへの対応方法を検討している。入居間もない方は理解しきれないことが多いが、少しずつ近い関係が整うように配慮してケアを行うようにしている。ホーム内での作業は一緒に行ってくれる方もいれば、見ているだけの方もいる。個々の思いに添って日常が過ごせるように対応している。                          |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | かつて飼っていたペットの写真、愛着のある洋服やマグカップ、昔から大切にしていた琴の芸具などを、身近に置き、そのひとらしい生活を続けている。自宅でパン食だった人は、好みのパンを施設で提供している。  |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 利用者の状況は、介護記録に詳細に記録し、特に把握すべき箇所には蛍光ペンで下線を引いて、職員で情報を共有した上で対処に努めている。入居者の生活リズムを崩すことなく共同生活に必要な最低限のルールを守り、好きな時間に、好きなことが出来る環境と支援に努めている。  |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者会議でアセスメントし、ケアの方向を関係者で照合や意見交換し、情報共有と具体的な関わりや介護方法まで、個別の計画を立て実践している。本人にとって、より良い支援を提案している。  | 新型コロナウイルス感染症のため面会制限があり、電話で連絡して意見を聞いている。書面で意見を聞き取ることが多くなったが、プランの変更の際にはご家族の意志もあり、ご家族が望むケアができるよう職員で情報を共有している。モニタリングは随時行っているおり、一度立てたプランについても職員の意見を含めてできるだけ多くの意見を聞いたうえで総合的に反映させている。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | ケアでの気付いた点、利用者の生の声をそのまま記録に残し、アセスメントして職員間で共有している。実践している中で記録や情報から新たな変化に気付いたことは工夫をして計画が必要となった場合は、期間内であっても随時見直し、追加や変更している。  |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 知り得た知識やアイデアを職員間で、共有と話題にし、実践に活かしている。利用者の安心と安全を保ち、職員が自由に実践出来る環境作りに努めている。利用者各々の特徴を考慮して、自尊心を傷つけないように配慮した上でサービスの提供を心掛けていく。  |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | コロナ感染防止対策に心掛け、職員と共に、近所の公園を散歩したり、近くのコンビニやスーパーへ買物に出かけたりすることが、ひとつの楽しみでもある。新型コロナが流行する前までは、月に一度の法話で、正信偈や童謡を歌ったりして、生き生きとした時間を過ごしていたが、今は中止している。                                  |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | かかりつけ医への受診や協力医療機関の受診、訪問診療等本人や家族の希望に応じて継続できるように支援している。受診は、基本的には家族が付き添う事となっていますが、コロナ渦や家族が高齢で、連れていくのが困難になっているのが現状である為、その時の状況や変化に応じて、送迎サービスをして職員が対応している。かかりつけ薬局から薬の宅配を利用している。 | 在宅でのかかりつけ医を継続して受診しているが、多くの人は法人関連の病院の往診をお願いしている。細かな事など情報を共有する為提供書を送っている。認知症の行動があれば専門医をかかりつけ医としている。   |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 看護師の職員と情報を常に交換し、相談しながら受診の手配やケアに努めている。受診時は情報提供書により利用者の状況を詳細に記載し連携している。訪問診療や訪問看護の利用者については、日々の関わりの中で気が付いた事や、情報を訪問看護師に伝達し、適切なケアを受けられるようにしている。                                 |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した場合は、協力医療機関の医師及び看護師又はケースワーカー等と連携し、こまめに情報交換を行い、適切な医療を受け早期に退院できるように調整している。   |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入居時に、重度化した場合や終末期の対応について、説明している。利用者の状態が悪化した場合には、重度化や終末期のあり方について、改めて家族、かかりつけ医、職員などと事業所での対応について話し合い、方針を共有している。その方らしさを尊重できるようなケアに努めている。入居時や状況に応じて、ACPシートを用いて、要望確認をしている。       | 重度化の説明をAPCシートを利用し、契約時に看取りについての説明を行っている。状態が変化した際には、入院が必要な人には入院して頂き、その後も看取りをホームで行うか検討して頂いている。ホームでは何十件も看取りの経験があり、対応可能である。訪問診療の医師、訪問看護師による点滴処置が行う事もできる。夜間の状態変化に関してはホーム長に連絡し、指示をもらう体制が確保できている。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | コロナ渦で、研修や定期的な訓練は行っていないのが現状。急変時の対応ができるように、努めなければならない。  |   |                   |
| 35 | (13) | ○緊急時等の対応<br>けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている   | 緊急時対応マニュアル、連絡網が整備され職員全員に周知し、誰もが緊急時に対応できるように見直しをしている。所在不明時の対応はスピード感を持って行えるよう、状況によっては家族の了解を得て、速やかに、警察との連携が取れるように入居時から説明をしている。   | 緊急時の対応マニュアルはいつでも閲覧できる環境となっている。あきらかになり離脱の危険性がある方に関しては職員を含めご家族にも説明を行っている。   |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36                               | (14) | ○バックアップ機関の充実<br>協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている                       | 協力医療機関との支援体制が、確保されている。協力医と連携し、看取り介護も行っており、必要時には訪問診療・訪問看護体制もとることができている。   | 開設以来かわらぬ医療機関がかかりつけ医となっており、訪問診療、介護老人施設(グループホーム、小規模多機能有料高齢者施設)と常に情報交換と支援を求められるグループ化がなされている。災害時にも対応できる体制ができています。  |                   |
| 37                               | (15) | ○夜間及び深夜における勤務体制<br>夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている                              | 夜間は、各ユニット1名の勤務体制であるが、利用者が重度化した場合等、夜勤者同士が協力し合う。又は、夜勤者1名を追加して対応できるように心掛けている。緊急時は、かかりつけ医、家族、管理者に連絡し、必要時に救急要請等の対応が出来るようにマニュアルに示し連絡体制を確保している。 | 各ユニットで1名の職員が勤務している。夜間の緊急時は管理者や医師、看護師に連絡が取れる体制となっており、対応は随時可能な状態である。各ユニットの職員が協力し合える体制も伴っており、夜勤スタッフも不安なくケアできる環境となっていることが確認できた。                                    |                   |
| 38                               | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 災害対応マニュアルを整備し、定期的に見直し、全職員に周知している。様々な災害を想定し、定期的に避難訓練を行っている。地域との協力体制は充分ではないが、地域の方や近隣の方々に根気強く働きかけていく。                                       | 近隣に用水路があるため危機管理について町会長に相談を行った。避難場所は小学校で少し距離もある。実際に災害が発生した際には、高齢者を移動させて避難するよりホームにて避難をしていた方が安全が確保できる。備蓄品や夜間の暖を取る等の体制について様々な事を想定し、安全な環境をその都度考え、避難訓練を実施している。       |                   |
| 39                               | (17) | ○災害対策<br>災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている  | 各部屋の出入り口横に、安否確認用のマグネットを付け、迅速な避難誘導ができるようにしている。消防署への自動通報装置を設置し、消火器、スプリンクラー等の消防設備点検を年2回実施している。年1回は備蓄品の見直し、点検をしている。いざという時は、慌てず対応できれば理想である。   | 非常災害時の際に利用者の安否を確認し、スタッフやその他の方が分かりやすい様に個々の居室のドアにマグネットを取り付けている。安否が確認できたらマグネットの色で分るようにしている。非常災害時に移動できるように必要な物はまとめており、1階の入居者が水害にあったとしても2階に移動し、すぐに持って来られる様準備が出来ている。 |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |  |                   |
| 40                               | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 介護理念に基き、利用者個人の特徴を把握し、言葉掛けや、さりげない対応を心掛けている。個々の行動を尊重し、言葉掛けが過度にならないように、利用者の言動や態度を否定はしないように心掛けている。入浴や排泄の際は職員間で連携し、プライバシーの確保に努めている。           | 入居者を尊重した対応を心掛けており、入居者一人一人に合った対応を行っている。穏やかになる声掛けや、行動を見ながらの対応を行っており、本人の思いの否定はしない様スタッフは周知できている。入居者の呼び名に関しては、関係性が確保でき次第、本人に再度確認している。下の名前で呼ぶ際には、ご本人に承認して頂いている。      |                   |
| 41                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 施設で、本人が望む生活が送れるように、自己決定することを大切にし関わりを持って、支援している。  |  |                   |
| 42                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自分だったらこうで有りたいの思いを持ち、支援している。利用者の自己決定を基本にし無理強いせず、その人らしさを大切に本人の思いに柔軟に対応できるよう努めている。  |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |  |
|----|------|---|--|--|--|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 43 |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                 | 利用者が、衣服等の選択も自己決定出来なくなりつつある現状もあるが、職員サイドでおしゃれが出来るようにカバーし、コーディネートしている。  |  |  |
| 44 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 職員と利用者が、一緒に会話しながら食卓を囲んでいたが、コロナ感染予防対策として、利用者との間隔を充分に図り、時間差で職員は、食事を摂るようにしている。利用者が座ってできる、お盆拭きやホットプレートを使った調理、野菜の皮むき等の家事作業を行っている。利用者のできることで、得意なことを知る。利用者同士が共に助け合って食事、準備を行っている。パン好きな人には、パン食も取り入れている。 | 食材は、取引先に週3回の配達お願いしており、週4回はホームで買い物をして利用者と一緒に献立を立てている。デリバリーをお願いする事もある。お寿司の出前を取って誕生日会を開催したり、おやつ作りを一緒に行ったり、お茶碗拭きを手伝ってもらったりと一連の中でそれぞれ出来る役割分担をお願いしている。ミキサー食の必要な食事形態の方の対応や、食欲がない方への対応も含めて行っている。ホームでは野菜も作っており、年1回兼六園の梅をいただき、梅干しや梅ジュース作りも行っている。又、地域から頂いた野菜などを使いおやつ作りも行っている。 | 手作りおやつ等、利用者自身も参加しており、楽しみにしている。食に対する興味や役割参加も出来てとても良い。今後も継続して行って頂きたい。ホームは食事の準備の匂いであったり、音であったり暖かな雰囲気でもまれており、入居者自身の食べる意欲となる環境となっている。 |
| 45 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている         | 水分補給には、特に注意を払っている。食事以外にも必要に応じて水分の確保に努め、嚥下状態が良くない人には、とろみ粉を使用したり、ゼリー状にして提供している。栄養バランスが偏らないように、肉・さかな・野菜・フルーツは、1日の中で取り入れるように心掛けている。  |  |  |
| 46 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                  | 起床後、就寝時、食後の口腔ケアを実践している。自力で困難な方には全介助し、口腔内の清浄化に努めている。嫌がる利用者には無理強いをせず、状況を見ながら適宜行っている。昨年の6月からコロナ感染予防対策から中断を余儀なくされていたが、歯科衛生士による利用者の口腔ケアチェックが今年7月より再開となった。必要に応じて歯を治療することもある。                         |  |  |
| 47 | (20) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている  | オムツやパット使用の工夫をしている。利用者の排泄パターンを知り、声掛けによりトイレ誘導し、トイレでの排泄を心掛けている。排便の有無の確認を忘れず行っている。その時の利用者の状況により、トイレの場所、トイレの仕方がわからないなど、その都度その都度、対応と支援をしている。   | トイレ誘導は排泄パターンを把握したうえで、トイレ誘導を行っている。要介護4～5の車椅子ご使用の方も、状態に合わせた排泄対応を実施している。トイレ拒否のある方には時間を空けたりし、再度声掛けを行い対応している事が確認できた。  |  |
| 48 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                  | トイレでの排泄を心掛けているが、何日も排便がない時は、生活リハビリ等の運動や飲食物、多めの水分摂取に気を配っている。それでも排便がない場合、下剤や看護師による排便で様子を観察している。   |  |  |
| 49 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 利用者の体調を把握し、入浴希望の確認をしている。無理強いをせず、受診前日や散髪後に入浴できるように配慮している。季節や利用者の好みに応じた入浴剤の利用も楽しんでいる。多量の排便があった場合には、清潔を保つため、シャワー浴をするなどしている。   | 1日3人の対応を基本としているが、回数の変更の希望のある方や夕方を希望される方にはその都度対応し、夜中でも入浴が必要な方に関しても随時対応を行っている。入浴は座位バランスが保てる方や浴槽に入れる方に関しては一人介助であるが、保持できない方に関しては2人で介助で実施している。  |  |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |   |
|----|------|--|--|---|---|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 50 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している  | 利用者の状況に応じて、日中でも休息したい方は居室で休んで頂き、ゆったりした自分だけの時間を過ごせるように対応している。  |   |   |
| 51 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | 医師から処方された薬は、正しく服用できるように支援している。嚥下しにくい錠剤や散剤については医師、薬剤師と相談し、服用しやすい形状に変更したり、ゼリーで服用できるようにしている。利用者の症状変化に留意し、薬の使用目的や作用・副作用について薬剤情報提供書で確認し、職員で共有している。誤薬がないように、注意を払って、確実に服薬出来ているのか、確認している。                |   |   |
| 52 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている  | 楽しみや役割の場を設けて、職員が声かけをしてサポートを試みるが、年々、利用者の介護度が上がりつつある現状、やる気と継続が困難になってきている。施設内で、椅子に座って出来る簡単な体操と顔マッサージ体操を行いコミュニケーションを取り、笑いある場を設けている。  |   |   |
| 53 | (22) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 新型コロナウイルス感染防止の観点から、外出を自粛しているが、状況に応じて近場の買い物に利用者が参加できるように支援している。天気の良い日は近くの公園への散歩の機会を取り入れている。地域の行事は、中止となっていることから、参加していない。   | 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から自粛している事も多いが、買い物には一緒に出かけている。外出の支援としてのお墓参りや外食、地域の行事等の参加などはできない状況となっている。お墓参りに行きたいと希望があった方の対応としては、ご家族が中心ではあるも、ご家族の力のみでは外出が困難な方には職員も同行し、お墓参りが出来た事もある。ご本人は、その後は覚えていないが、思い出作りの参加を行っていた事に感銘を受ける事もあった。 |   |
| 54 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 利用者は、金銭の自己管理が難しい為、小銭は所持しているも、大きな金額は所持していない。家族の面会時や受診時に必要ものを購入してもらっている。金銭の管理については、入居時に説明している。   |   |   |
| 55 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話は、いつでも使用できるようにしている。家族や友人からの電話を取次ぎ、ゆっくり話ができるように配慮している。手紙やはがきが届けばすぐに手渡し、希望や必要に応じて読み聞かせをしている。家族に書類を送る機会のある方には可能な時は、直筆の手紙を書いていただき同封することもある。記載時は、傍で見守り、記載支援をしている。                                   |   |   |
| 56 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 職員と利用者の協同作業のなかで、居心地よさを工夫し、季節感を取り入れたディスプレイ等を創作し飾っている。窓際から、庭の野菜や草花などを眺めながら季節を感じたりしている。施設内に、行事の写真や誕生会の写真などを掲示して楽しんでいる。利用者や職員と共に過ごすリビングは、時にソファやテーブルの配置を工夫したりしながら、居心地良い空間作りを努めている。生花が絶えず、スタッフの心遣いがある。 | 玄関は、コロナウイルス感染防止の為にシートを設置している。シートの仕切りの向こうにホームで手作りしたテーブルを設置したり、シートには折り紙で花を作り、四季折々の花を飾ったりしている。コロナ禍で外出できない事もあるが、ホームで工具等も使いながら家具を手作りし、以前とは違う楽しみもホームの中でできており、心地よい空間となっている。  | 入居者の今までの生活歴の中で行って来た事を案として出して頂いた事で、手づくり家具が出来たり、飾りが出来たりと、職員と利用者が上手く役割分担が出来ている事が素晴らしいと感じた。継続して行って頂きたい。 |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|---|--|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 57 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている             | 利用者は、自由に場所と時間を使ってお茶を飲みながら話したり、新聞を読んだり、折り紙や塗り絵をしたりしている。また、好きな歌と一緒に歌ったり入居者同士の語らいを大切に、居心地良い環境作りに努めている。  |  |                   |
| 58 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が、使い慣れた家具や親しみのある物、大切なものを自室に持ち込み、身近に置いて楽しめるようにしている。職員は、それらに関心や好感の言葉掛けを意識して行うよう努めている。家での暮らしに似た環境で、心地よく暮らせるように工夫している。                                  | ホームで備え付けているカーテン、ベッド、引き出しの付いた家具があり、その他に今まで自宅での生活を継続してゆける様に自宅から好きな物を持って来て頂く事は可能である。以前は仏壇を持って来た方もおられた。写真を持って飾る方もあり、ご自身が必要と思う物で居心地の良い空間作りを実施している事が確認できた。 |                   |
| 59 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している    | 利用者への観察を、充分に行い感心を示しながら接遇を大切にして自立支援に努めている。たとえば、居室の位置、トイレの位置、水道の蛇口の種類の違い等、馴染みの環境で習慣として考えながら行動できるようにしている。利用者の転倒予防のため、廊下や居室、エレベーター前には行動の障害物が無いように環境を整えている。 |  |                   |